

【伊吹山自然再生協議会】第1回協議会議事要旨

- ・日 時 平成 20 年 5 月 29 日 9:30～12:45
- ・会 場 米原市伊吹薬草の里文化センター 2F 視聴覚室
- ・出席者 村瀬委員、須藤委員、溝口委員、柴田委員、吉田委員、森田委員、犬飼委員、大森委員、永田委員、内川委員、高橋委員、森 委員、藤井委員、筒井委員、宗宮委員、茶谷委員、須田委員、池田委員、北川委員、松岡委員、熊倉委員、山田委員、膽吹委員、児玉委員、要石委員（25名）

* 出席者には一部代理出席を含む。

1. 協議会設置要綱の説明

- ・事務局から協議会設置要綱を説明し、了承を得た。

2. 委員の紹介，会長の選任

- ・村瀬委員が会長に選任された。

3. 伊吹山の現状について

村瀬会長から以下のような現状説明があった。

伊吹山の歴史の紹介

- ・江戸時代から採草などで山が管理されてきたが、昭和 40 年代以降放置され、植生の遷移が進んでいる。

伊吹山の植物相および植生の紹介

- ・伊吹山固有種，薬草，分布南限種，石灰岩特有の種など貴重な植物，植生が分布している。

伊吹山の現状と課題の説明

- ・ササ草地化，低木林化といった植生遷移の課題
- ・登山路沿いの踏みつけによる植生の変化
- ・シカ，イノシシなどの獣害

お花畑復元活動の紹介

- ・ササの刈り取り、低木林の除伐、播種等によるお花畑の復元
- ・人の立ち入りを禁止することによる踏跡植生からお花畑への復元
- ・ササや低木林も残しつつ、伊吹山に多様な植生を成立させることが重要。

4. 議事

(伊吹山の現状と課題について)

自然再生の目標について

- ・自然再生の「自然」の定義づけ(例えば、原生自然を目指すのか、人との関わりの中で成立してきた里山的自然を目指すのかなど)を行い、目標とする「伊吹山の自然」を明確にすることが必要。

- ・古い記録をみると3合目より標高の高い所は「お花畑」であったことがわかっているその頃の状態、昭和40年代初期くらいを目指したい。その時期であれば記録もあるので目標にすることが可能である。
- ・各地の自然再生事業をみると、昭和初期、遑っても江戸時代くらいを目指している例が多い。その時代までであれば情報があるので目標にすることができる。
- ・自然再生のビジョンを協議会で決めていただきたい。果たして昭和40年代にもどすことが本当によいのか。
- ・私たちの小さい頃のお花畑を取り戻したい。
- ・この第1回の協議会は伊吹山の課題の抽出をメインテーマとしているので、今回は課題を出して頂いて、自然再生の長期目標については次回以降の検討テーマと考えている。伊吹山は昔から人と自然が関わりを持ってきた山なので、県としては、原生自然ではなく、昔ながらの昭和30~40年代を目標においてはどうかと考えている。次回資料として「伊吹山の目標」のたたき台を提出したい。(事務局)

石灰岩採掘について

- ・南側斜面のお花畑は注目されることが多いが、北尾根の採掘地が広がっていることはどうなのか。伊吹山をトータルで考えるならば採掘地の問題も取り上げるべきである。
- ・北斜面の掘削は短期間に進んでいる。弥高の方にも別の採掘業者が入っている。鉄塔も景観的に問題がある。また、工場跡地をどうしていくのか、産業廃棄物関連施設などの建設が挙げられているようだが、これらの課題も検討テーマに取り上げてほしい。
- ・全体構想としては鉱山の問題も項目として挙げており、検討していきたいと思う。
- ・採掘は自然と直結している事業である。自然を破壊してよいと思っているわけではない。社会的に必要な事業として行っている。緑化の努力もしている。琵琶湖の砂の採取が禁止になって伊吹山の採掘が広がったという経緯もあり、たとえ伊吹山で採石をやめたとしても、社会の需要から他の場所での採石が進むと考えられる。

お花畑等の課題について

- ・夜間照明による植物への影響は大きいと思われる。
- ・植生復元というどうしても山頂がメインとなってしまうが、山麓にもセツブンソウの群落など保全すべき植生があり、山麓のことも考えてほしい。
- ・後世に伝えたい伊吹山の姿を目標にしたらいいのではないかと。森林をどうするのかについても取り上げてほしい。
- ・伊吹山と人との関わりが希薄になったことで現状の問題が起きている。人と自然の関わり方も検討課題に取り上げてほしい。
- ・3合目のもとのキャンプ場あたりに多くの人が集まり、ゴミも多く課題と感じている。
- ・オオイタヤメイゲツ低木林の山頂部への拡大や獣害には地球温暖化も影響しているのではないかと。積雪量の減少によって、シカやイノシシが高標高地に登って

きている。また、イヌワシの餌付けなどの問題がある。

- ・企業としてはイヌワシの撮影に多くの人を訪れるのも致し方ないと思っている。伊吹山と共存して行くためにもいろいろな意見をお聞きしたい。

課題解決のための取組について

- ・天然記念物に指定されているのは山頂の草地植生であり、この草原は基本的に人の管理で維持していく必要があると考えている。この協議会で相談しながら管理を進めていきたい。
- ・再生事業が終了した後のことも検討すべきである。事業年度が終了したら元に戻るのでは困る。事業後は地元の人で管理されていくことになると思うが、難しい面があるのでは。
- ・人間の活動も含めての良好な自然環境を目指したい。地元の人々や経済的効果も含めて人と自然の良好な関係づくりをやっていきたい。
- ・規制を強化する方向ばかりではなく、マナーを守って自然を観察する人たちには、訪れてもらうという方向で考えたい。
- ・お花畑の柵の中もゴミが多い。杭とロープが貧弱なので、マナーの悪い人は中まで入ってしまう。